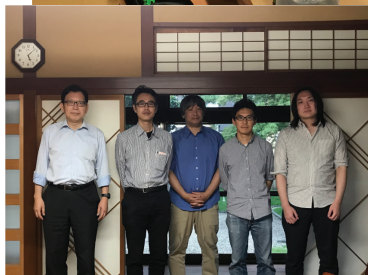
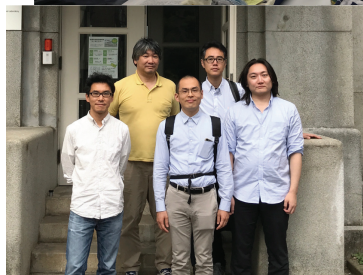
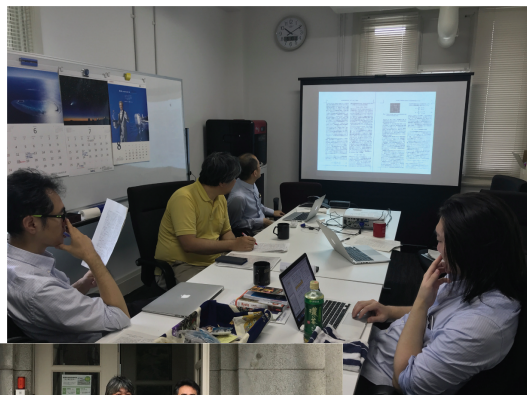


1日目の討論の様子 京都大学吉田泉殿にて



1日目 参加者
左から
乾敏郎
大羽成征
吉田正俊
島崎秀昭
磯村拓哉

2日目の討論の様子 京都大学市川記念館にて



2日目 参加者
左から
島崎秀昭
吉田正俊
田中琢真
大羽成征
磯村拓哉

写真1 2018年6月28・29日京都大学で行われた集中討論の様子

感情についての説明を与える試みが解説される。こちらに興味を持たれた読者は著者による新著「感情とはそもそも何なのか?—現代科学が明らかにする感情の仕組みと障害」⁸⁾もご覧いただきたい。

本特集号の作成にあたっては、独自の取り組みとして執筆者同士の討論会の実施という新しい試みを行った(写真1参照)。去る2018年6月29日(金)、30日(土)に執筆者陣が京都大学の吉田泉殿(1日目)および市川記念館(2日目)に文字通り手弁当で集まり、缶詰になって集中討議を行った。それぞれが総説ドラフトを自身で解説、それに対して議論・コメント・批判を行うというノンストップの討議である。本特集で解説されているように、古典的な脳の符号化理論・変分推論・制御理論との関連から他者推論・意識・感情の理論・熱力学まで多岐に渡る議論が行われた。またこの場で最小限の用語の統一も行われた。

自由エネルギー原理は脳の包括的な理解を目指しており、勢い広範囲の知識が必要になる。一人でこれをカバーするのは大変だが、執筆メンバー各人が学び合うことでこの分野の理解が大きく進展した。終わった時には各自疲労困憊だったが大変貴重な機会であった。議論を元に著者陣は原稿を再度ブラッシュアップし脱稿に至った。強力な特集が出来たと自負する。読者の皆様に新しい「脳の理論」の構築に向けた我々の「わ

くわく」感が伝われば幸いである。

参考文献

- 1) 島崎秀昭, 大羽成征, 吉田正俊 (2017): 2017年度時限研究会「脳の理論から身体・世界へ: 行動と認識への再挑戦」実施報告, 日本神経回路学会誌, Vol.24, No.4, pp.228-232.
- 2) 吉田正俊, 田口 茂 (2018): 自由エネルギー原理と視覚的意識, 日本神経回路学会誌, Vol.25, No.3, pp.53-70.
- 3) 磯村拓哉 (2018): 自由エネルギー原理の解説: 知覚・行動・他者の思考の推論, 日本神経回路学会誌, Vol.25, No.3, pp.71-85.
- 4) 島崎秀昭 (2018): 認識と行動の適応原理, 日本神経回路学会誌, Vol.25, No.3, pp.86-103.
- 5) 田中琢真 (2018): 情報量最大化原理による皮質神経回路のモデル化, 日本神経回路学会誌, Vol.25, No.3, pp.104-112.
- 6) 大羽成征 (2018): 自由エネルギー原理は脳型人工知能の基盤となるか~アクティブインファレンスの意義について~, 日本神経回路学会誌, Vol.25, No.3, pp.113-122.
- 7) 乾 敏郎 (2018): 知覚・認知・運動・感情・意思決定をつなぐ自由エネルギー原理, 日本神経回路学会誌, Vol.25, No.3, pp.123-134.
- 8) 乾 敏郎 (2018): 感情とはそもそも何なのか?—現代科学が明らかにする感情の仕組みと障害, ミネルヴァ書房, 京都.